

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>常に利用者のニーズを大切にすることと、地域の一員として暮らすことを意識し、理念に沿って取り組んでいる。</p>	○	利用者のニーズの変化をくみ取り、地域密着型サービスとしての理念の見直しをしていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>運営理念を事務所内に掲示し、共通の目的を持って、日常生活支援を全職員で実行している。</p>	○	運営理念を全員が理解し、業務内容が理念に一致しているか確認している。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>家族、地域との連携のために連絡をできるだけ多く持ち、理念を理解していただけるよう説明している。</p>	○	社内報を作成し、理念を掲載している。今後は、外部にも発送していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>隣近所との連携は必要不可欠なため、常に交流を深める働きかけをしている。出退勤時、散歩時など声掛けし関係づくりをしている。</p>	○	災害時に備え、隣近所の方も参加していただける訓練を考えている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>自治会などに働きかけ、地域の活動や交流を図っている。</p>	○	自治会の行事に参加したり、地域のゲートボールチームなどに場所を提供することを計画している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々との会議などで話し合いの機会をつくっている。 認知症についてや施設への受け入れ相談に応じている	○	地域での介護教室の開催や、介護相談室の開催に取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をもとに会議や日常業務の中で話し合い、全職員で質の改善・向上に活かしている。	○	全職員が評価の内容、意義を認識し、熟知するよう努めている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一回実施しており、会議で意見を出していただき、改善・向上に向け取り組んでいる。	○	地域の人達より、支援をいただけるように、地域密着型サービスとして、何が出来るかを話し合い実行していききたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携は重要であり、情報提供や情報収集に努めている。	○	今後も連携に努め、サービスの向上につなげていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	会議、研修などに参加し学ぶ機会を持っている。また、職員には自己研鑽を促している。	○	利用者の相談に活かせるよう、知識を深め支援体制を整えていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、虐待はみられない。	○	虐待防止の意識を高めるため、継続的に研修を行い、各々が意識し注意している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・管理者が文書に沿って口答で十分な説明をし、確認し同意を得ている。	○	十分に時間を取り、不安や疑問点が残らないように説明を行っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談を文書に残し、苦情に対する対応を速やかに検討し対応している。	○	運営推進会議の場で意見を聞いたり、日々利用者の思いを受け止め、職員全員で改善している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話連絡により随時報告し、家族とのコミュニケーションを大切にしている。	○	ホームページで家族の方々への情報提供を行っている。遠方の家族で希望者は、パスワードを入力すれば、自分の家族の様子を見ることができる。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに、家族への声かけを必ず行い、話しやすい雰囲気づくりに努めている。	○	家族会などで意見、要望をいただける機会を多くつくってきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や会議、日々の業務の中で、職員の意見を出してもらい反映していけるようにしている。	○	コミュニケーションを多くとり、素直な意見が出せる雰囲気づくりを心掛けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	業務を進める上で必要な支援を柔軟に提供するため、臨機応変に対応している。	○	その都度対応している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を極力少なくし、馴染みの関係づくりを心掛けローテーションを考えている。	○	職員の異動、離職時は特に注意し支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、社内研修を実施している。外部研修に関しては、職員にフィードバックしている。 日常業務のなかで研修内容が活かせるよう助言している。	○	研修で学んだことを現場で活かし、全職員の資質向上につなげたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・見学で交流の機会を持ち、同業者との連携に努めている	○	情報交換を行い、今後もお互いにサービスの質向上を目指せる関係づくりをしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務時の態度を見極めたり、他の職員の話聞き、休憩中や勤務時間外に相談できるようにしている。	○	その都度話を聞き実施している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の勤務状態を把握し、配慮している。	○	常時、職員が向上心を持つことができているかどうかを見極め、向上心を持って働けるよう努めている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	普段の生活でコミュニケーションを多くとり、訴えの内容を見極め受容している。意志表示できない方は家族から聴いている。	○	本人、家族とのコミュニケーションを増やし、細かいところまで不安、希望をくみ取れるようにしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会や電話により家族から状況を聴き、困っていることなどを受け止め信頼関係を築いている。	○	より深い信頼関係が築けるよう、話を傾聴するなど対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が今何が必要なのかを見極め、事業所として対応している。	○	他の事業所との連携を図り対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人、家族がホームを見学し、職員との面談、相談を行い納得された上で利用している。	○	本人、家族が安心してサービスが受けられるよう、馴染みの関係をつくっている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の立場で考え、日常生活の場で、人生の先輩として言葉がけや対応に注意し関係を築いている。	○	職員一人ひとりが人権やプライバシー保護を考え実施している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって一番よい方法を、家族とよく相談し、共に考えていただいている。	○	今後もこまめに連絡をとり、連携して本人を支えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や電話連絡により、利用者の状況を説明し、良い関係づくりが築けるよう支援している。	○	随時こまやかに家族と連絡をとっている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族、友人、知人の方に、できるだけ面会していただけるようお願いしている。	○	面会が継続してもらえるように支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が助け合い、話し合っている場面がよくみられる。	○	利用者同士の良い関係づくりを支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も状況をお聞きし、協力できることがあれば協力できる関係づくりに努めている。	○	今後も継続して、支援できる体制づくりに努めていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での本人の行動や、会話、意見に注意している。また、コミュニケーションを多く持ち意向などの把握に努めている。家族からも話を聞き把握に努めている。	○	本人の思いを職員がくみ取り支援している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、馴染みの関係をつくり、本人や家族から話を聞き把握に努めている。	○	利用者の暮らしの把握は、ケアする上で必要なことと考え情報を共有している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの残存機能に応じ、生活していただくよう努めている。	○	職員全員が利用者の状況を把握するよう徹底している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者の立場で考え、家族、利用者自身とも話し合い、意見、要望を聞いた上で、全職員との話し合いで作成している。	○	常に全職員の意見を聞き、個々の特性を踏まえ介護計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の目標設定期間の終了前、状態変化時に見直しを実施している。月に一度は必ずモニタリングを行っており、家族とも相談している。	○	常時、利用者の変化を見逃さない。また、気づきを大切にし、ニーズに応じた見直しに努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、業務日誌に日々の記録を記入し職員のケア実践に活かしている。また、介護計画の見直しに活かしている。	○	職員全員が利用者の少しの変化に気づき、記録できるように指導していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望に応じ臨機応変に対応している。	○	他の事業所のサービスも考え、当事業所でも機能できるよう支援している。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の人に協力を得ながら支援している。	○	近隣のボランティアの方々の協力を得ながら、地域資源の情報を集めるよう努めている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業所との連携を取り、情報交換している。	○	お互いが協力して支援していけるよう関係を深めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、地域資源として連携を図っている。	○	地域包括支援センターからの情報は不可欠なものである。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に相談し同意を得、納得した上で決定している。	○	今後も医療機関との連携、情報の共有ができるよう、常時連絡を密にし関係を深めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	2週間に1回心療内科医師の往診があり、相談に応じてもらっている。	○	医師との信頼関係を築きながら、個別支援に努めている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接する同社の訪問看護ステーションから馴染みの看護師に来てもらい、健康管理や医療的な支援を行っている。	○	今後も、連携を密にして健康管理を行っていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	隣接する同社の訪問看護ステーションに協力を得ながら、病院との連携を行い必要な支援を行っている。	○	情報交換や相談しながら支援している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を家族に説明し、同意を得て支援を行っている。	○	急変時に対応できるように、関係機関で話し合う機会を増やしたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護・介護職員が連携を図りながら、チームで支援する方針を取っている。	○	主治医、家族と連携をとりながら、安心して安全に暮らせるよう取り組んでいる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までの生活に関する情報をプライバシーに配慮しながらケア関係者に伝え、継続的に支援できるように努めている。	○	その都度、話し合いや情報交換を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が利用者の人格を尊重し、プライバシーの確保は介護の基本であると認識し、心がけて対応している。	○ 職員同士がお互いに注意できるようにしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常時、声掛けにより本人の意思に沿っている。言葉で伝えられない利用者も行動、態度で把握できるよう努めている。	○ 本人の意思によって決定できるような支援を心がけている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心のゆったりとした生活をしていただけるよう、見守り支援している。	○ 訴えのない利用者各々が、何をしたいのかを日々の暮らしの中で、職員が把握できるよう努めている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月1回ホームに専門の理容師に来ていただいている。	○ 意思伝達のできない方は、家族に尋ね支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮な物を食べていただけるよう献立の工夫をしている。	○ 食物をかみ砕く力が低下している方が多くなり、ミキサー食で提供している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握し、希望に合った献立や味つけを心掛けている。	○ 行事の時は好みの物を出し、お酒も少し飲んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、定時および利用者個々に応じて排泄誘導している。	○	立位のとれる方は極力トイレで排泄していただくように、声かけ誘導している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中いつでも入浴していただけるよう、希望時や失禁時には個人入浴でプライバシーに配慮している。	○	機械浴の設置があり、普通に入浴できない方でも、入浴を楽しんでいただけている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜の区別をしていただけるよう、規則的な生活パターンを実行している。	○	利用者各々のリズムに合わせて支援している。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとり役割を持てるよう、利用者の立場で「何をしたいか」「何ができるか」を把握し支援している。	○	残存機能により、利用者個別の役割を持っていただいたり、楽しみを持っていただいている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理を行いたい利用者には、管理できる体制を整えている。	○	お金を所持している利用者には、家族と相談し支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	生活の中での楽しみの一つとして、朝夕の散歩を心がけ、季節感を感じていただけるよう努めている。	○	その日の利用者の状態に応じ、外出の機会が得られる体制を整え、気分転換を図っていただいている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と相談しながら、出かける機会をつくっている。	○	できるだけ多く外出できるように、体制を見直していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーを守る配慮をしながら支援している。	○	電話や手紙のやり取りは、できる限り行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には、ゆっくり過ごせる空間づくりに配慮している。	○	外部の人の訪問時には、プライバシーに配慮している。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容、弊害は十分に理解し、身体拘束はしていない。	○	今後も事故に注意しながら、身体拘束のないケアをしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、チャイムを取り付け対応している。外へ行かれても職員が見守り支援している。	○	自由に外へ出ていただけるよう配慮し、見守っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者を常時見守り、動きやサインを把握し安全を確認している。	○	利用者の行動を予見し、全職員が注意している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は、保管、管理している。状態に応じて自分で持っている利用者には注意している。	○	物品の保管、管理は職員間で徹底し、危険防止に努めている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故・緊急時などの対応マニュアルがある。職員が認識し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故再発防止には特に注意し、見直し改善している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時に備え研修や訓練を行い、実際に活かせるよう取り組んでいる。	○	マニュアルを作り、全職員に周知している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員、利用者が一緒に防火訓練を定期的に行っている。会議、日常業務の中でも職員間で話し合っている。	○	地域の協力体制が得られるよう、話し合いを進めている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族との連携を取りながら、状況に応じ説明している。	○	リスクを予見し、家族と相談しながら支援している。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルサインチェックや表情観察を行い、状態の変化に注意している。	○	看護、介護が連携を取り、情報を共有し、細かい変化も見逃さないよう取り組んでいる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬のないよう注意している。	○	個人ケースに薬の説明書を入れている。日常の状態を同社の訪問看護ステーションの職員や主治医に報告し、連携を図っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因を看護、介護面からアセスメントし、個別に自然排便のための工夫をしている。	○	下剤や薬に頼らないで、水分補給や食物の工夫を行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	残存機能を引き出しながら実施している。	○	協力歯科医師が随時往診に来られ、口腔ケアを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は介護記録に記入し、水分摂取をしていただくよう工夫し注意している。 管理栄養士と相談しながら、個々に応じた食事摂取への支援をしている。	○	利用者の日常の様子を観察し、個別支援をさらに重視していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルに沿い、職員が認識し実施している。	○	常時、手洗い消毒薬を備え、予防の徹底を図っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、買い物に行き、新鮮な食材を使用している。 衛生管理には十分配慮している。	○	食器類の衛生管理については、高温処理できる設備を設置し使用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに庭園があり、開放的である。 夜間以外は施錠せず、いつでも出入りできる。	○	建物全体が木造で、家庭の延長の生活を可能にしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるような木造作りで、各室、廊下の窓も大きく光が入りやすく景色を眺められるようになっている。	○	自然光の取り入れがしやすい工夫がされている。 季節季節の花を意識して生けている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースはくつろげる家具を置き、自由に過ごせるようにしている。	○	中庭や畳の間があり、自由に出入りできる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を持って来てもらい、安心して落ち着いて過ごせる空間をつくっている。	○	家族の写真なども増やしていけるように、家族と話し合っていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	中庭があり廊下全体に窓があるため、十分な自然換気ができる。 温度調整は常々注意している。	○	空気清浄機、換気扇を設置している。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すりも設置している。	○	建物の内外で滑りにくい材質の物を使用している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室に手作りの表札をかけたたり、トイレの表示をしている。	○	環境整備は混乱を招かないよう、また、自立して生活できるようにその都度補修している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で談笑ができるよう、椅子やテーブルを置いてある。	○	前庭に石のテーブルと椅子、ホーム外周にベンチを設置している。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

安定した生活、普通の生活を送っていただくため、新設された訪問看護の協力を得て、介護、看護、医療の連携を図り、健康管理の充実、体調変化への迅速な対応ができています。